

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0570408054 | | |
| 法人名 | 有限会社らいふ | | |
| 事業所名 | グループホームらいふ | | |
| 所在地 | 大館市長木川南343番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.akita-longlife.net/evaluation/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 | | |
| 所在地 | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年2月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の場として家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々の残された能力を最大限に活用し、健康維持出来る働きかけをし、毎日、生き生きと安心して楽しく生活してもらえるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地にあり、コロナ禍で制限がある中でも町内の住民がお互いに声をかけ合い、雪寄せを手助けしたり、さまざまな形で触れ合い、従来の関係を大切に暮らしが営まれています。特に幼稚園児とは以前のような積極的な交流はできませんが、利用者の生活に良い影響をもたらしているようです。利用者の機能は低下してきていますが、ホームでの生活が少しでも楽しいと思ってもらえるよう理念に沿った支援が提供できるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|--|
| 47 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 54 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 48 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 55 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 49 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 56 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 50 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 57 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 51 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 58 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 52 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 59 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 53 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念を職員が認識しやすい場所に提示し日頃から話し合い、職員の意識を高める取り組みをしている。また、理念を分かりやすく「安心して楽しく生活してもらおう」とし職員の方針として日々実践につなげている。 | 理念を意識した支援をケアの基本とし、利用者の生活に反映できるよう、代表が毎朝の申し送りの際に職員に話し、実践に繋げていけるよう努めています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、回覧板を通じ町内の行事を知ることができたり、コロナ禍であるが、保育園が近いので散歩時保育園の庭で遊ぶ子供たちを見に行ったり、保育園児と先生方がハロウィン等仮装をして玄関まで来てくれたりと、近隣との交流を深めている。 | コロナ禍にあり、以前と活動の形は変わりましたが、幼稚園児や中学生との交流は続いています。町内会、近隣住民とも従来通りのお付き合いをしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 運営推進会議にて町内会長、行政担当者の方、家族の方に事業所の支援について説明し、町内の相談の拠点になることを説明している。相談に来られた方には、コロナ禍であったので連絡先を聞いてFAX等で情報提供する。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の都度、現在の事業所の状況、活動内容を説明し、意見交換の中からサービス向上に活かすことが出来るように取り組んでいる。また、町内会からの働きもあり、地域内に生活する中学生のボランティアに訪問していただき、入居者の方に喜ばれている。(コロナウイルス感染予防対策のため入居者との触れ合いは出来なかったが、施設の外側の窓清掃、菜園の後始末の手伝いを行ってもらう) | 行政、町内会会長、民生委員、家族が会議メンバーとなっています。会議で出された町内の情報や提案等をサービスの向上に活かすことができるよう取り組んでいます。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者とは、運営推進会議において定期的に情報提供を受けている。 | 更新手続き等で窓口に出向いて話す機会をつくり、協力関係が築けるように努めています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 社内研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為、および拘束による身体的精神的苦痛を理解し、拘束はあってはならないことを自覚してもらっている。また、入居者がその人らしく生活できる取り組みについて話し合っている。高齢者虐待防止関連法について職員会議の場や毎日のミーティングで学ぶ機会を作り、職員同士で言葉の暴力がないか、不適切な対応がないか等を見直し、入居者が安心して生活できる配慮をしている。 | 定期的に研修を行い、職員の理解に繋がっています。不適切な対応がないか等、随時話し合い、職員間でも気をつけています。 | |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修で学ぶ機会を作り、入居者の必要に応じ支援している。地域包括センターと関係をと、活用できる体制にある。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居契約時、利用料金や医療行為が必要な場合の退居等について詳しく説明し、納得していただき、また、健康面では状態変化時の連絡方法や希望受診病院等を伺っている。 | | |
| 9 | (6) | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口や苦情への投書箱があることを、入居時に本人・家族に説明し、不満や苦情時に使ってほしいことを伝え、職員が速やかに解決することを説明して取り組んでいる。家族からは面会や電話連絡時に意見や要望を伺い、運営や支援に反映させている。 | 電話や面会の際に意見、要望を引き出すようにしています。家族の意見に耳を傾け、納得できるよう対応しています。 | |
| 10 | (7) | ○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている | 職員会議や毎日のミーティングで出された職員の意見や提案は、話し合いの結果をふまえ取り組み実施している。 | 代表が現場の状況を理解しやすい立場にあり、職員の意見や提案を取り入れて運営に反映させています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会へ参加した時、その機会を利用して他の事業所の方と交流を図り、情報や意見交換を積極的に行うようにしている。 | | |
| 12 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前に本人に事業所を見ていただき、会話の中から不安に思っていることや希望していることを把握し、入居後の支援が本人にとって適切なものになるように取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族に、入居されてからの本人の生活内容を説明し、理解を求め、家族からの希望を聞きケアに生かしている。 | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が持っている残存機能を最大限に生かす工夫(洗濯物の整理、お盆・食器拭き、野菜の下ごしらえ、皮むき等を通して)し、食事作りにも料理の仕方を聞いたり、職員と共に生活している意識を高めている。 | | |
| 15 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 機会ある都度、家族に状況を説明し、面会の時はゆっくり会話できるようにお茶を用意していたが、今年度はコロナ禍のため玄関での5分間の面会で了解してもらっている。また、面会時に心配事はないか聞き、ケアに生かしている。 | | |
| 16 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている | 電話等で連絡が入った時、事情を説明し、出来るだけ本人と電話で会話してもらう。 | 電話で話したり、正月に帰宅したり、受診時に院内のコンビニで買物することを楽しみにしている方もいて、これまで関わってきた人やその人の思いを大切に、家族の協力も得ながら継続できるよう支援しています。 | |
| 17 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の輪の中に職員も参加し、話を聞いたり、話しかけたりしている。トラブルが発生する状況時には未然に防ぎ速やかに調整している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去時に相談を継続することを説明している。 | | |
| 19 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活の中から会話の仕方、表情、行動等の状況を把握し、その人らしい生活の継続に努めている。意思疎通が困難な方はご家族から意向を伺い検討している。 | 日々の生活の中で気づいたこと、気になったことを日誌に記録して共有し、生活に活かされています。 | |
| 20 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の事前面談・アセスメント・ケアマネジャーの情報提供や今までの暮らしを、本人・家族から伺い、生活の場として戸惑うことなく生き生きと過ごせるように配慮している。 | | |
| 21 | (10) | ○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している | 本人、家族、職員等と話し合いながら現状に即した介護計画を作成し、また、本人の意向を反映した計画が出来るよう努めている。 | 新規入居者については入居前の状況を確認して生活の様子を観察し、職員と協議して介護計画を作成しています。日々の記録を基に話し合い、管理者がモニタリングして見直しに繋がっています。 | 介護計画に基づいて記録することで、モニタリングや介護計画の見直しに効果的に繋げる工夫を期待します。 |
| 22 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を記入し、情報を共有し統一したケアがなされるよう休みの職員も必ず確認できる体制を作っている。また、計画の見直しにも生かしている。 | | |
| 23 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 警察への協力依頼をはじめ、防災への取り組みについて消防署にお願いし、近隣の方々への働きかけを行っている。 | | |
| 24 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は入居前からの医師が継続できるようにしており、かかりつけ薬局との関係も図っている。定期的な往診による治療を受け、往診結果は個々のファイルを作成し、職員全員が対応出来る体制をとっている。状態の変化により本人・家族の希望があれば医療機関を紹介等の支援をしている。 | 協力医による訪問診療が行われ、精神科、呼吸器科等、他の診療科には看護師である管理者が通院介助しています。現在歯科治療している人はおりませんが、受診の希望があれば応じ、薬局との協力関係も築かれています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職の配置で介護職と連携して状況変化に対応している。急な受診の場合には、協力医療機関との関係を図っている。 | | |
| 26 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | かかりつけ医の紹介によりスムーズに入院し、情報提供書等による情報交換や入院中には病院関係者と連絡を取り合いながら退院に向けた体制をとっている。 | | |
| 27 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時には、重度化した場合に事業所で出来る医療処置の限界を説明し、入院が必要な場合の理解を得ることが出来るようにしている。重度化した場合、家族に医療機関への同行を依頼し、主治医、家族、職員と話し合い連携を図っている。要介護3以上の方は、入所前に関わっている居宅サービス担当の方と連絡をとり、特養への入所手続きの支援を行っている。 | ホームでの看取りに対応していないことを入居時に説明し、了承していただいています。状態の変化に応じて関係機関と連携を図り、次の支援に繋げています。 | |
| 28 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修を行ったり、救急時の対応を日頃から職員にマニュアルに沿って学んでもらっている。 | | |
| 29 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防職員の指導を受け、火災避難訓練を定期的に行っている。風水害等の防災についての研修も行い、意識も高まっている。火災時の避難場所が町内会館で町内会、家族との協力体制も出来ている。 | 避難訓練は夜間を想定して行っています。具体的な取り決めは検討中であるものの、有事には近隣住民、消防団員の協力が得られることになっており、運営推進会議でも提案、意見が出されています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日頃から一人一人の人格の尊重とプライバシーの保護について話し合い、職員同士で気が付いたら速やかに解決している。 | 方言を使用してもきつい感じに受け取られないよう、状況に応じて注意喚起しています。入浴時の同性介助に配慮し、排泄時のさり気ない介助を心がけています。 | |
| 31 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の着替えは本人の希望に沿っており、理容も馴染みの店に行ったり、事業所に来てもらったりしている。また、化粧品を持参しおしゃれを取り入れている方には声がけし見守っている。 | | |
| 32 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その人の能力に応じて、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。調理の音や匂いで会話を楽しんでもらっている。 | 山菜の下処理を利用者は生き生きとして行っています。外食は控えていますが、利用者にはできることを手伝っていただき、楽しく食事できるよう支援しています。 | |
| 33 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重測定により栄養状態を把握している。1日の食事量・水分量を把握し、食事量の減少がある場合は、食事形態を工夫している。また、水分を摂りたがらない人はこまめに水分摂取を促している。 | | |
| 34 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後のうがい、口腔状態の確認、起床時就寝前の歯磨き、義歯の手入れ、うがいをやっている。 | | |
| 35 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表によりトイレの誘導時間を個々に把握しトイレ誘導し、失禁などに速やかに対応している。夜間のトイレは場所がわかるように電気をつけておいている。個々の歩行状態から夜間はポータブルトイレを使用している。 | 自身でトイレに行く方もおりますが、さり気なく支援することで失敗の防止に努めています。排泄用品の費用については家族が納得できるよう支援しています。 | |
| 36 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表を確認して便が2～3日ない時は、食べ物の工夫、牛乳や水分を補給したり、散歩や軽い運動を行っている。改善されない場合は医師に相談し、下剤で調整している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は週2回に設定しているが、利用者の希望や状況に応じて、随時の入浴が可能な体制をとっている。 | 利用者の体調や希望等、その時々状況に合わせてシャワーや足浴、清拭を行い、清潔に過ごせるよう支援しています。 | |
| 38 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1日の生活のリズムから個別に休息できる配慮を行っている。また、昼夜逆転をしないように日中の活動を見守り、就寝に向けたリズムが安定するように配慮している。 | | |
| 39 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が個々の服用している薬の内容が分かるように服薬ファイルを作り、処方の変更の時は日誌にて職員が周知徹底するようにし、服薬確認を行っている。かかりつけの薬局の薬剤師より毎月指導を受けている。 | | |
| 40 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家族から生きがいに楽しんでいたことを聞き、調理、畑や花の手入れ漬物づくりなど、事業所で行うことに職員と一緒に参加していただいている。また、日々の洗濯たたみや食事の片づけ等、力を発揮できるよう声がけしている。 | | |
| 41 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 1人で外出し、買い物や散歩をし、戸外に出るのを生きがいにしている人を支援し、職員付き添いでの散歩への取り組み、家族の協力による帰省や外出、季節の変わりりに事業所での遠足への参加の支援を行っている。 | 混雑を避けて散策できる場所までドライブを実施したり、散歩や近所の花を観に出かけ、車椅子も利用し、気分転換が図れるよう支援しています。 | |
| 42 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持できる人には、お金を持っているという安心感が持てるように支援をしている。ご本人からの物品購入希望には対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間～食堂～台所が一体になっており、職員が調理場に常時いるので、入居者の状況を把握でき、また、会話の中から不快感があるか、混乱していないか等すぐ知ることが出来る。温湿度計で室温や湿度は管理されている。居間は季節に応じた飾り付けをしている。 | 温湿度計を設置し、換気を適度に行い、通路の安全にも配慮して居心地の良い生活空間にするために環境を整えています。 | |
| 44 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル、ソファ等で仲の良い入居者同士がくつろいでおり、季節の花を飾ったり飾り付けをしたり、入居者の方々の作品の啓示をしたりして居心地よく暮らしている。 | | |
| 45 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家で使った馴染みの家具を用意して、家庭的な雰囲気にし、居心地よく過ごせる工夫をしている。 | 本人が希望する物を家族が持参したり、それぞれの利用者が自分の家として過ごせるよう支援しています。 | |
| 46 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の身体機能を活かすため、夜間のポータブルトイレ設置、位置の工夫、手すりの利用、段差スロープの設置などを行っている。 | | |